

内部統制

社会課題の背景

不適切会計やコンプライアンス違反等の不祥事は後を絶たず、企業のより一層の防止策が求められています。一度不祥事を起こすと全ステークホルダーの信頼を損ない、その後の事業活動が困難になることも考えられます。アンリツではこのような不祥事を決して起こさぬよう、ルールや業務プロセスを整備し、適正に運用するとともに、体制の構築と強化が重要であると考えています。

方針

アンリツグループの内部統制システムは、グループ経営の有効性と効率性を高めること、財務報告の信頼性を確保すること、およびコンプライアンスを主たる目的とし、事業内容の変化や経営環境の複雑化、多様化等に対応し、継続的に改善、強化を図っていきます。そのうえで、内部統制システムの実効性が確保された健全な経営活動を実践し、企業価値の向上に努めていきます。

詳細(WEB)

内部統制システム構築の
基本方針

詳細(WEB)

内部統制システム及びリスク
管理体制の整備の状況等

体制

アンリツグループは、財務報告の信頼性に関わる内部統制委員会、およびコンプライアンスに関わる企業倫理推進委員会とその関連委員会(情報管理、公正取引推進、輸出入管理、環境管理などの委員会)がおのの主体となり、必要な審議を行うとともに、グループ横断的な情報共有や教育施策などを通じて、内部統制システムの整備と運用およびその実効性の確保に対する活動を推進しています。グローバルには、ヨーロッパ、アジア、アメリカ、そして日本の内部統制推進部門のメンバーからなるグローバル内部統制委員会を設置し、各地域の事業活動や経営課題のリスクへの対応状況を共有するとともに、各業務プロセスに対し内部統制手続きの組み込みを支援し、内部統制システムを効果的・効率的に発展させる活動を行っています。さらに、アンリツ(株)の内部監査部門、グループ会社の内部監査部門、監査等委員である取締役および経営監査室が、おののの任務に従って、これら委員会などの活動および内部統制システムの評価につながる監査を実施し、関連組織へ提言を行っています。

取り組み/活動実績

内部統制評価に関する2018年度の活動について、財務報告に関わる分野では、アンリツ(株)の内部監査部門およびグループ会社の内部監査部門が主体となり、財務報告に関わる内部統制の有効性を評価しました。なお、評価段階で検出された不備に対しては、適切な改善措置を実施しています。財務報告以外の分野では、情報管理や貿易管理などコンプライアンスに関わる分野で、アンリツ(株)の内部監査部門が、内部統制の有効性を評価しています。その際、組織改編やITシステムの更新などにより統制環境に変更が生じたプロセスに対して、重点的に検証を行っています。

海外アンリツグループについては、各地域の監査担当者による監査に加え、アンリツ(株)の監査等委員である取締役、経営監査室および内部監査部門が現地に赴き、内部統制の有効性を評価しています。2018年度は、アジアやヨーロッパ地域の一部のグループ会社に対して、業務の執行状況、財務報告の状況およびコンプライアンスの遵守状況などについて監査を実施しました。